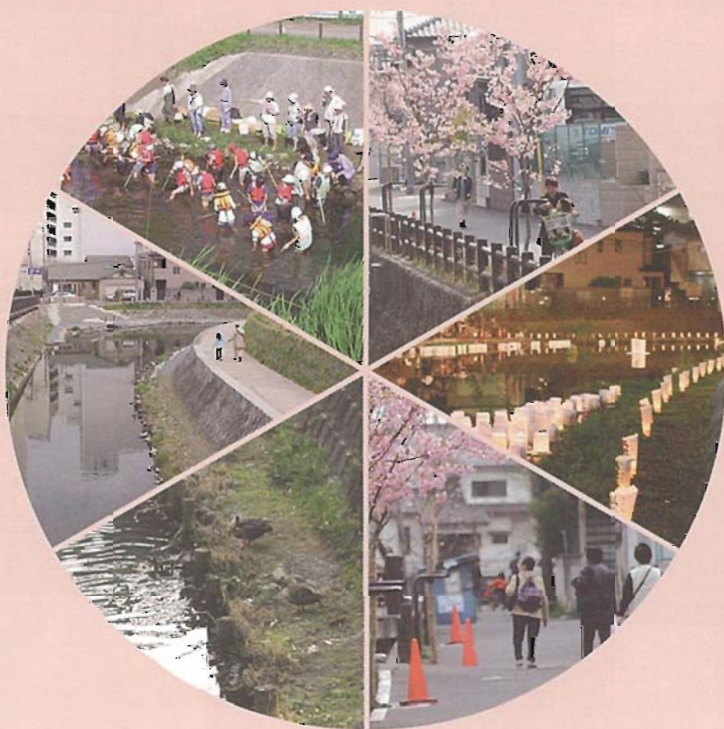


坂川河川再生事業

よみがえる坂川



千葉県・松戸市

坂川のあらまし

坂川は、柏市酒井根の台地に源を発し、台地の水を集め準用河川上富士川、一級河川富士川として北西に流下し、松戸市幸田で西南に向きを変え、松戸市横須賀で新坂川と合流、新松戸で坂川放水路と分派して平地部を南下、松戸市街地を流れ根本地先で新坂川を合流します。その後、納屋川岸(なやがし)地先にて一部を分流し赤坂樋門から江戸川に排水し、市街地及び矢切一帯の農地をさらに南下し、下矢切の柳原水門において江戸川へ合流する利根川水系の一級河川です。

流域面積	51.4 km ²
総河川指定延長 (国の直轄区間を含む)	28.9 km



坂川放水路(主水新田)



新坂川



*事業実施状況図

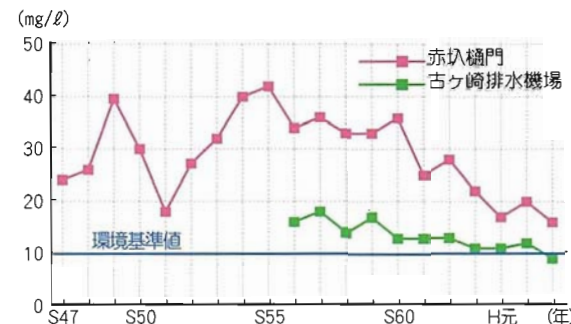


坂川河川再生に向けて

水質汚濁が著しかったかつての坂川

昔の坂川は、大地からの湧水を受け、清らかな水が流れ、たくさんの生き物が生活していました。しかし、昭和40年代後半から流域の人口増加と都市化が進み、生活排水や工場排水の受け皿となりました。その結果、水質汚濁が著しく進み、地域住民の生活環境上の問題だけでなく、江戸川の水利用にとっても大きな問題となりました。

*水質グラフ(年平均)

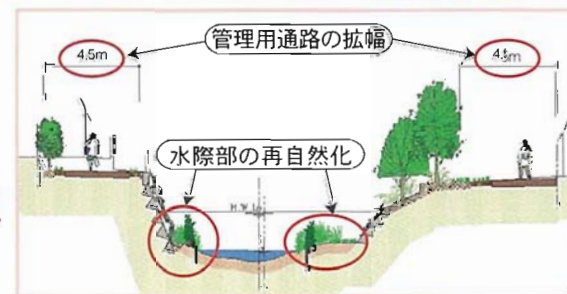


河川再生計画

坂川河川再生事業は、住民と行政が協働で計画づくりを行い、坂川を生き物や人々にやさしかった昔の姿に回復・再生させるため、川沿いの歴史的な遺産や雰囲気を生かしながら、多自然型の川づくりや水辺のプロムナード化などを実施するものです。

- ①良好な河川空間の形成
- ②都市の中の水辺空間を生かしたまちづくり
- ③身近な自然の保全と創出(多自然型の川づくり)
- ④河川文化の保全

*計画代表横断面図



テーマ
人が集い
歴史を創る坂川の流れ

河川再生の取り組み

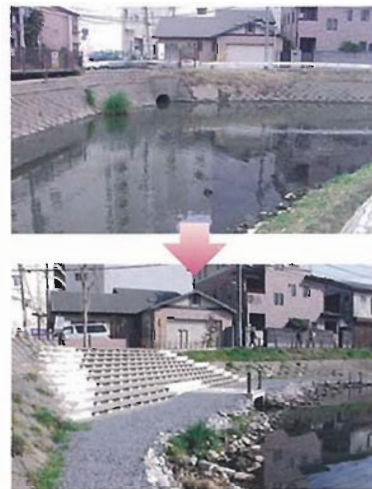
坂川河川再生の実施状況

坂川河川再生事業は、平成15年6月、陣屋口橋の南側より水辺の再自然化の工事が始まり、平成17年から始まった春雨橋付近のメインスポットとなる水辺の憩いの場の整備が平成18年に完了するなど、春雨橋からレンガ橋までの約500mの区間を重点的に進めています。

今後も、住民参加型プロジェクトとして、住民・松戸市・千葉県3者の連携を図りながら坂川を整備していきます。

A. 春雨橋～神田川合流点

- ①人々が憩えるまちづくりの拠点として、春雨橋上流左岸の都市開発との一体整備。
- ②水辺に近づくための階段護岸を作るとともに、舟着場(川岸)の雰囲気再生。



B. 松戸神社付近

- ①松戸神社周辺の景観を保全するとともに、両岸に桜並木を整備。
- ②松戸の歴史をたどる遊歩道の整備。
- ③水際は生き物が生息していけるように工夫。



C. 陣屋口橋～レンガ橋下流

- ①水辺との身近なふれあいを楽しむ散策路や、水辺に近づくための階段を整備。
- ②遊歩道は既存の樹木を生かし、周辺の寺社を巡るゆったり空間。
- ③水際は生き物が生息していけるように工夫。

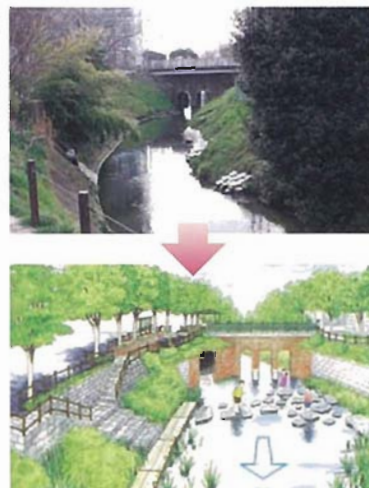


*坂川河川再生事業計画平面図



D. レンガ橋付近

- ①歴史的な建造物であるレンガ橋との出会いの場を創出。
- ②レンガ橋の機能を回復し、歴史遺産として保全。
- ③水辺との身近なふれあいを楽しむ散策路や、水辺に近づくための階段を整備。



E. レンガ橋～小山可動堰区間

- ①河川区間を活かした緩傾斜護岸をつくり、車椅子が通れるような遊歩道の整備。
- ②緩やかに蛇行する低水路とし、水際は生き物が生息していけるように工夫。



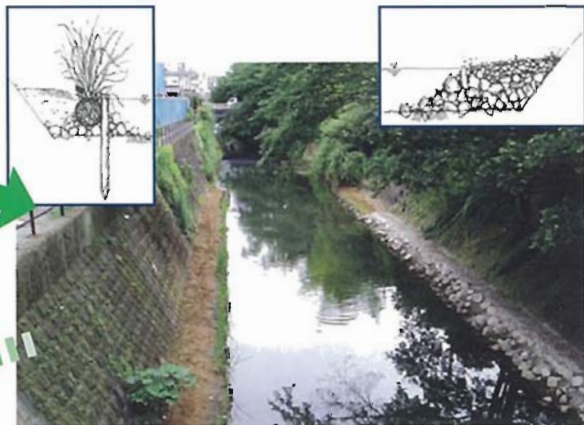
現れた河川再生の効果

自然環境の変化

坂川河川再生事業により、生物が生息しやすい環境に整備され、生物が坂川に戻り始めました。



マコモ・ヨシの植生ロールを埋め、また多孔質な水際を再生することにより、種の多様性が高まりました。



整備直後(平成15年7月)

親水性の向上

階段やスロープを設け、水辺に降りられるようになりました。また、水際も歩けるようになりました。



春雨橋付近

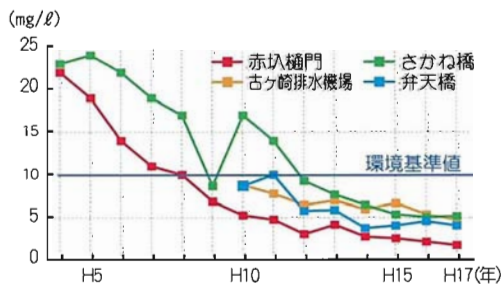


松戸神社付近

水環境の変化

坂川河川再生事業による多孔質な水際や、水生植物の回復で自浄環境が改善されたことや、地域住民の地道な清掃活動、広報活動、そして清流ルネサンス21などによって水質が改善してきました。

*水質グラフ(75%値)



坂川河川再生の活動

坂川河川再生事業にあわせて、平成12年10月に「坂川とまちづくり市民の会」が設立され、地域住民・松戸市・千葉県との3者で連携を図りながら川づくり・まちづくりを行っています。

ワークショップでの再生計画づくり

「坂川再生ワークショップ」は、平成11年～平成12年にかけて6回開催され【見る】【考える】【描く】【つくる】【まとめる】をキープレーズとして、各回の討議内容を坂川河川再生事業計画書へ反映させました。

- 第1回 坂川の現状を考える
- 第2回 坂川の昔の姿を考える
- 第3回 具体的なアイデアを絵に描く
- 第4回 坂川の将来の姿を完成させる
- 第5・6回 坂川のこれからについて考える



地道な河川清掃活動

坂川とまちづくり市民の会が主催して「みんなでおそうじ坂川」を、平成16年の夏から毎年4回(平成18年からは年6回)行っています。



平成17年8月



平成17年10月

桜並木の創出

「坂川とまちづくり市民の会」が中心となって、市民の手による桜並木の整備を進めています。

カフツザクラ



坂川とまちづくり市民の会

坂川を愛する市民の皆さんが集まり、清掃活動などを行っています。会長の鈴木さんに、坂川について伺いました。

- ・会の設立:平成12年10月
- ・会 員 数:設立時18名→現在43名
- ・活動内容:川の中の清掃(年6回)、草取りなど



会長の鈴木さん

- Q. 河川清掃の効果は?
- A. 毎回、集まるゴミが減りました。端溝を続け、川がきれいになるとゴミを捨てる人も減るようです。
- Q. 河川整備の効果は?
- A. 魚が増えました。ふれあい松戸川から水が入って、川床がきれいになりました。
- ・表通りを使って人達が川沿いを歩くようになりました。また、通行人からの「臭い・汚い」という言葉が減りました。
- Q. これからの目標は?
- A. 桜の名所になるよう桜を植樹しています。また、魚が遡上する川にしたいです。

A photograph showing a paved area with a tree shadow cast across it. In the background, there is a building and some greenery. The image is part of a sequence of four photographs showing the same scene from different angles.

⑤冬、まれに「雪」が積もります。

